



教育目標

学ぶ チャレンジ 夢実現

- 本年度の重点目標
- 1

学習指導の強化…基礎基本の定着、学び直しの支援
- 2

生徒指導の充実…規律ある生活、基本的生活習慣の確立
- 3

進路指導の改善…進路目標の明確化と職業観・勤労観の育成

達成度

A ほぼ達成（8割以上）

B 概ね達成（6割以上）

C 変化の兆し（3割以上）

D 不十分（3割未満）

学校関係者評価委員会メンバー
学識経験者、地域住民、保護者等

学 校 自 己 評 価								学校関係者評価	
現状と学校評価実施計画					達成状況と改善策			実施日平成 28 年 1 月 21 日	
No	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の 評価指標	方策の達成状況	達成度	次年度への 課題と改善策	学校関係者からの 評価・意見等	
1	【学習指導】 ・不登校や学習時間の不足から、小・中学校の学習内容が定着していない生徒が多く見られる。 ・学ぶことへの意欲が低い生徒がいる。 ・非常勤講師を除き、各教科 1 名の体制であるため、教員同士で切磋琢磨する場面が少ない。	教 員 の 授 業 力 の 向 上	年間 2 回の校内公開授業における授業への積極的な参観とその後の意見交換、見学者アンケートにより授業力の向上を図る。	・1 回の公開授業の際に一人あたり 5 回以上の参観 ・アンケートを集計し、授業者の振り返りとする	・年間 2 回の校内公開授業を実施することはできた。参観回数は第 1 回が 6.2 回、第 2 回は 6.0 回であった。 ・組織的な授業評価システムを構築し、取り組むことができた。	B	・校内公開授業は、参観回数を義務化するなど教職員がさらに積極的に参加するような工夫が必要である。 ・授業評価システムは、授業改善に役立つシステムとなるようさらに充実を図っていく。	・「マイスタディ」の時間の小テストについて、成績優秀者を表彰することは、自尊感情を高めるためにも有効な方法である。	
			生徒による授業評価を組織的に実施し、生徒の立場に立った授業を実践する。	・組織的な授業評価の実施					
2	【生徒指導】 ・多くの生徒が落ち着いて学校生活を送っている。一部の生徒に規範意識が希薄な面が見られ、安易な欠席、遅刻、服装等の乱れ、授業中の態度に課題が残る。 ・不登校経験者が多いが、課題を乗り越え登校できている生徒が大半である。一方で、自尊感情が低く、対人関係に課題を抱える生徒もいる。	生 徒 指 導 の 充 実 と 規 範 意 識 の 向 上	「マイスタディ」の時間毎に小テストを実施するなど、実施方法を改善し、基礎学力の定着を図る。	・小テストの実施状況	・毎時間小テストを実施し、成績優秀者を表彰することができた。	A	・テスト内容等を工夫し、生徒の基礎学力の定着を図っていく。	・「たかが卒業、されど卒業」である。そのためにも、自尊感情を高める機会に恵まれなかった生徒たちに、自分たちで取り組める機会をたくさんつくり、小さいことでもやることでできたという達成感、自信を持てるような仕組みをつくってほしい。 ・自尊感情、自己肯定感に関するアンケートの質問内容を工夫する必要がある。	
			登校、遅刻、頭髪、巡回指導を組織的・計画的に実施し、生徒への言葉かけや褒めることで、自尊感情を高め、校則を遵守する態度を育成する。	・出席率 90.0%以上 ・遅刻者数 1000 件以内 ・自尊感情に関する生徒アンケート結果	・出席率 87.62%、遅刻者数 847 件。 ・自尊感情、自己肯定感に関するアンケートは肯定的な回答が 5 割を超えなかった。 ・規範意識については概ね良好であった。	C	・出席率の向上を図るために、保護者との連携をさらに深めていく必要がある。 ・自己肯定感を高めるために、様々な体験活動を企画し、成功体験を積み重ねていく必要がある。		
		教 育 相 談 の 充 実 と 生 徒 理 解 の 推 進	情報モラル教育、交通安全教育、薬物乱用防止教育等で外部講師を活用し、生徒の規範意識を高める。	・実施の有無 ・規範意識に関する生徒アンケート結果	・面接週間を設定し、面談を実施することができた。情報を共有する意識も高く、概ね良好であった。	A	・気付きメモ等の活用方法をさらに検討し、情報の共有を図っていく。		
			教育相談体制の充実（個人面談、面接週間）、気付きメモ、意識調査の実施による教職員間での情報の共有。	・面接の実施状況 ・メモ、調査結果 ・情報の共有に関する教員アンケート結果					
3	【進路指導】 ・職業観、勤労観が確立されていない生徒が多く見られる。 ・自己理解が不足しており、進路を実現するための具体的方策を見出せない生徒がいる。	職 業 観 の 確 立 ・進 路 意 識 の 高 揚	進路に関する行事の実施方法を改善し、職業観を確立するとともに、進路意識の高揚を図る。	・実施方法の改善 ・職業観、進路意識に関する生徒アンケート結果	・卒業生を活用するなど、生徒の実態に応じた実施方法に改善することができた。 ・就労率は 60.4%であり、職業観に関する生徒アンケート結果も良好であった。	B	・進路学習の系統的な構築が必要である。職業観、勤労観を高めるための本校独自のキャリア教育を考えていく必要がある。 ・就労率を高めるために定時制後援会等の組織をさらに活用していく。	・就職率の向上を図るための効果的な方法を模索し、取り組んでほしい。	
			勤務先調査を実施するとともに、昼間の時間を効果的に活用するよう働きかけ、働くことの意味を考えさせる。	・就労率 65%以上 ・職業観に関する生徒アンケート結果					
		自 己 理 解 の 深 化	総合的な学習の時間や適性検査の実施とそれらの結果の面談等への効果的な活用を図る。	・適性検査の結果 ・自己理解に関する生徒アンケート結果	・適性検査は予定どおり実施。生徒の自己理解は進んでいない。	C	・キャリア教育の中で自己理解の伸長を図っていく。		